

## 第22回

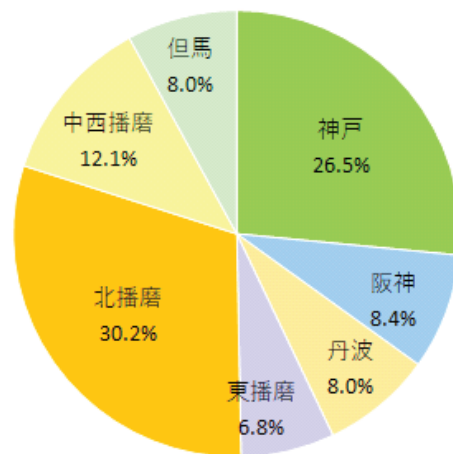
# けんしん中小企業景況 アンケート報告書

令和8年4月実施

### <調査について>

- 調査時点 令和8年4月
- 調査対象先 兵庫県信用組合のお取引先414先
- 調査方法 WEBによるアンケート調査
- 調査対象地域 当組合営業店営業エリア
- 調査項目 業況、収益状況、雇用人員、為替変動や国際情勢の変化、原材料価格やエネルギーコストの高騰などによる影響、経営支援状況 等

地域	事業者数	構成比率
神戸	110	26.5%
阪神	35	8.4%
丹波	33	8.0%
東播磨	28	6.8%
北播磨	125	30.2%
中西播磨	50	12.1%
但馬	33	8.0%
合計	414	100.0%



## はじめに

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は、当組合の業務運営につきまして格別のご支援とご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

また、ご多忙中にも関わりませず、「けんしん中小企業景況アンケート」にご回答いただき厚く御礼申し上げます。

当組合では、お客さまにより良いサービスをご提供すべく、平成27年度より、事業を経営されているお客さまに「けんしん中小企業景況アンケート」を実施させていただいております。

この度、ご回答いただきましたアンケート結果を集計し取りまとめいたしましたのでご報告させていただきます。

今回のご報告が事業経営のお役に立てれば幸甚に存じますとともに、今後、当組合が実施させていただきます各種経営サポートの取組みの参考とさせていただきます。

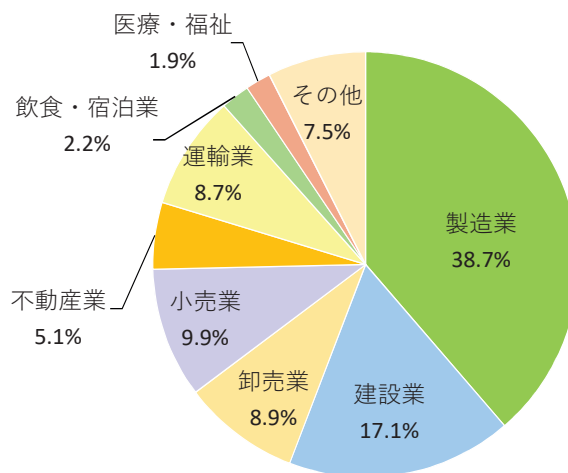
敬 具



## 事業者の概要について

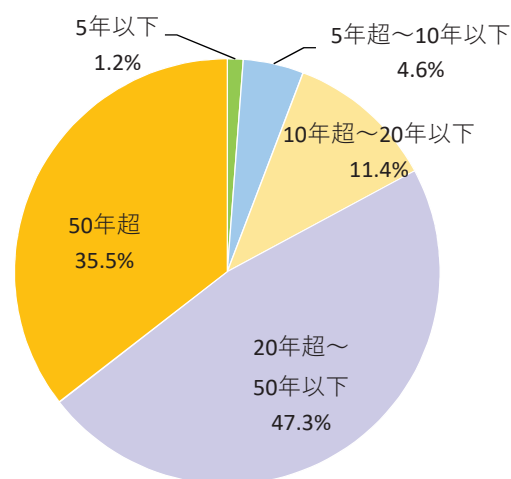
### ○ 業 種

業 種	事業者数	構成比率
製造業	160	38.7%
建設業	71	17.1%
卸売業	37	8.9%
小売業	41	9.9%
不動産業	21	5.1%
運輸業	36	8.7%
飲食・宿泊業	9	2.2%
医療・福祉	8	1.9%
その他	31	7.5%
合 計	414	100.0%



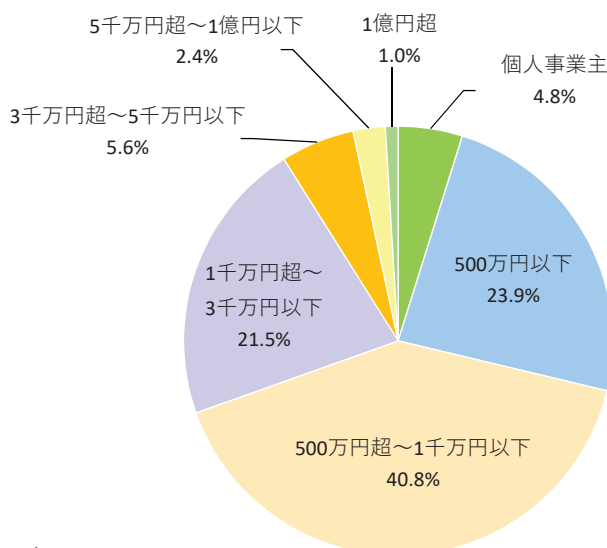
### ○ 業 歴

業 歴	事業者数	構成比率
5年以下	5	1.2%
5年超～10年以下	19	4.6%
10年超～20年以下	47	11.4%
20年超～50年以下	196	47.3%
50年超	147	35.5%
合 計	414	100.0%



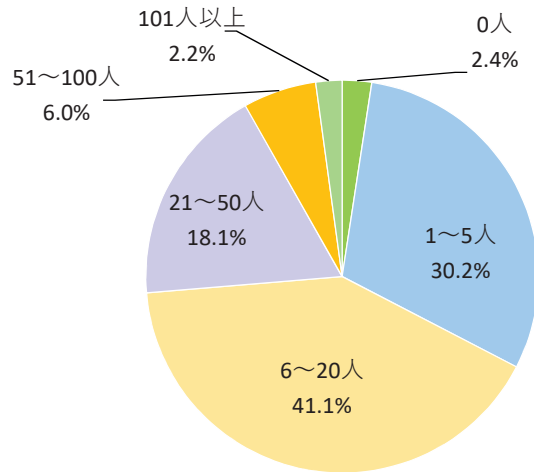
### ○ 資本金

資本金	事業者数	構成比率
個人事業主	20	4.8%
500万円以下	99	23.9%
500万円超～1千万円以下	169	40.8%
1千万円超～3千万円以下	89	21.5%
3千万円超～5千万円以下	23	5.6%
5千万円超～1億円以下	10	2.4%
1億円超	4	1.0%
合 計	414	100.0%



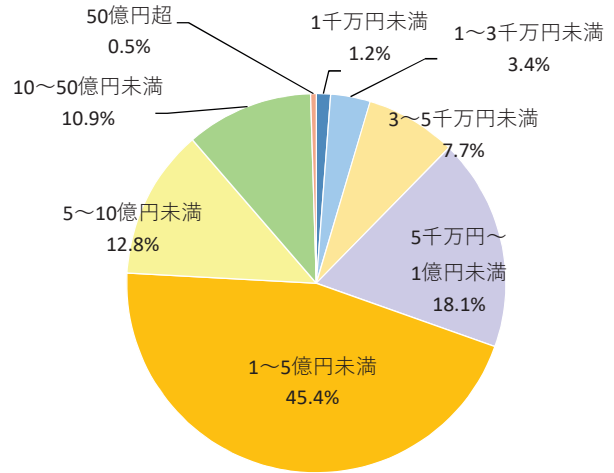
○ 従業員数（ただし、役員以外。パートを含みます。）

従業員数	事業者数	構成比率
0人	10	2.4%
1～5人	125	30.2%
6～20人	170	41.1%
21～50人	75	18.1%
51～100人	25	6.0%
101人以上	9	2.2%
合計	414	100.0%



○ 売上高（年間）

売上高	事業者数	構成比
1千万円未満	5	1.2%
1～3千万円未満	14	3.4%
3～5千万円未満	32	7.7%
5千万円～1億円未満	75	18.1%
1～5億円未満	188	45.4%
5～10億円未満	53	12.8%
10～50億円未満	45	10.9%
50億円超	2	0.5%
合計	414	100.0%



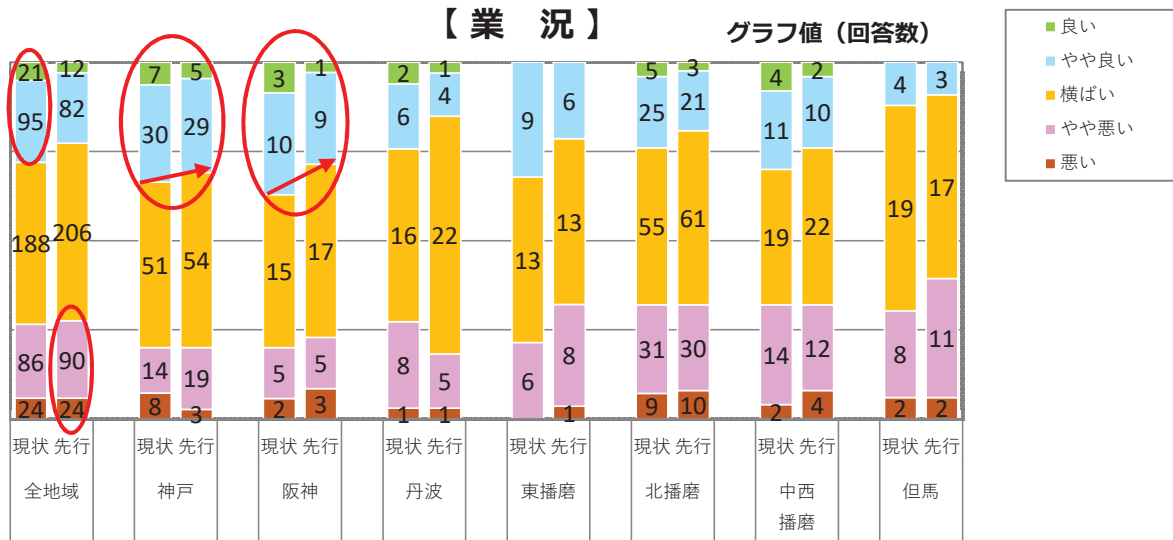
業況・収益状況・雇用等について

地域別

○ 業況

全体のDI値は、前回、現状±0から先行+38と好転見通しとなっていたが、今回は現状+6で先行-20まで悪化している。

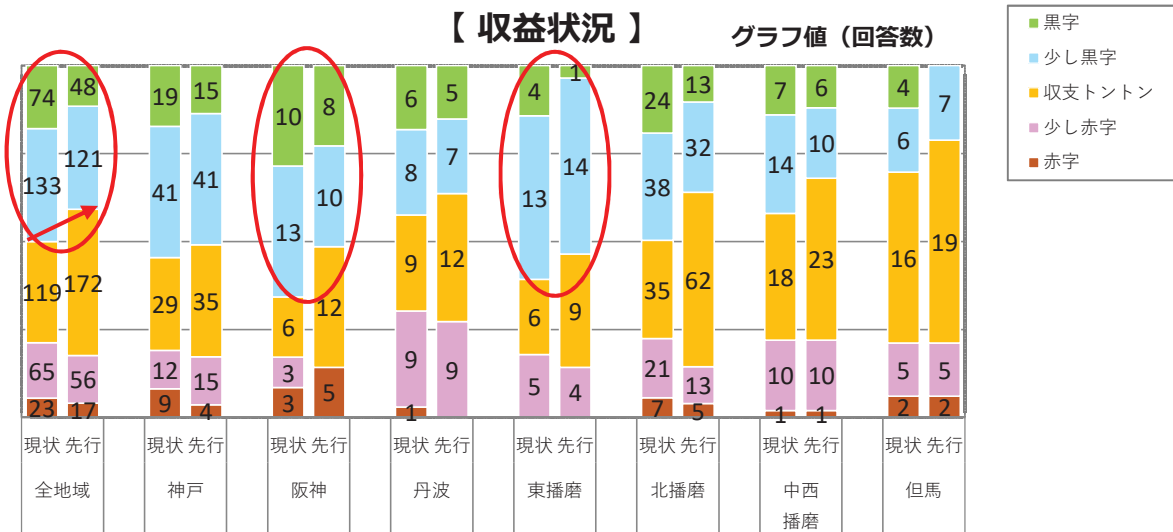
また、地域別では、神戸、阪神の2地域で現状、先行とも「良い」側の回答が多いが、同地域でも先行「良い」側は減少しており、業況悪化傾向の回答となっている。



○ 収益状況

全体のDI値は、現状+119、先行+96で、前回から引続き黒字での推移が見込まれているが、先行「黒字」側の回答は減少しており、今後収益悪化が予想されている。

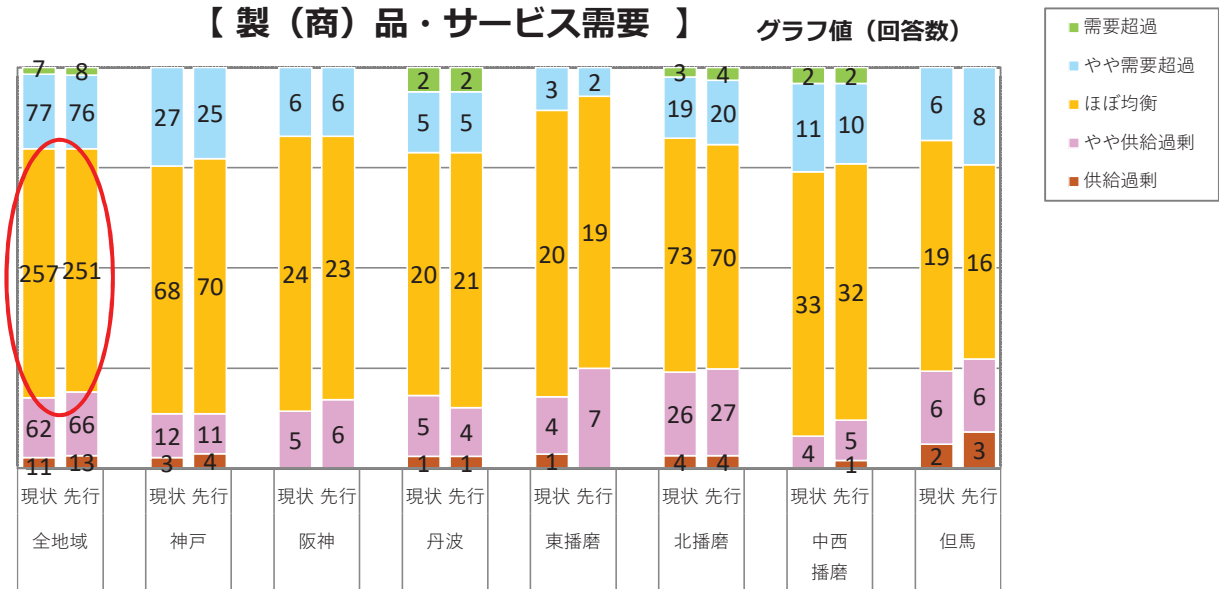
地域別では、但馬の先行を除き全地域で現状、先行とも「黒字」側の回答が多く、中でも阪神と東播磨の2地域では現状、先行とも「黒字」側の回答が50%を超えており良好な収益状況が窺われる一方で、全地域とも先行は「黒字」側の回答減少と、収益悪化が見込まれている。



○ 業界の製（商）品・サービス需要

全体の回答としては、DI値で現状+11、先行+5と「需要超過」側の回答が多いものの僅かであり、「ほぼ均衡」の回答が約60%あり、明確には「需要超過」「供給過剰」いずれとも言い難い回答となっている。

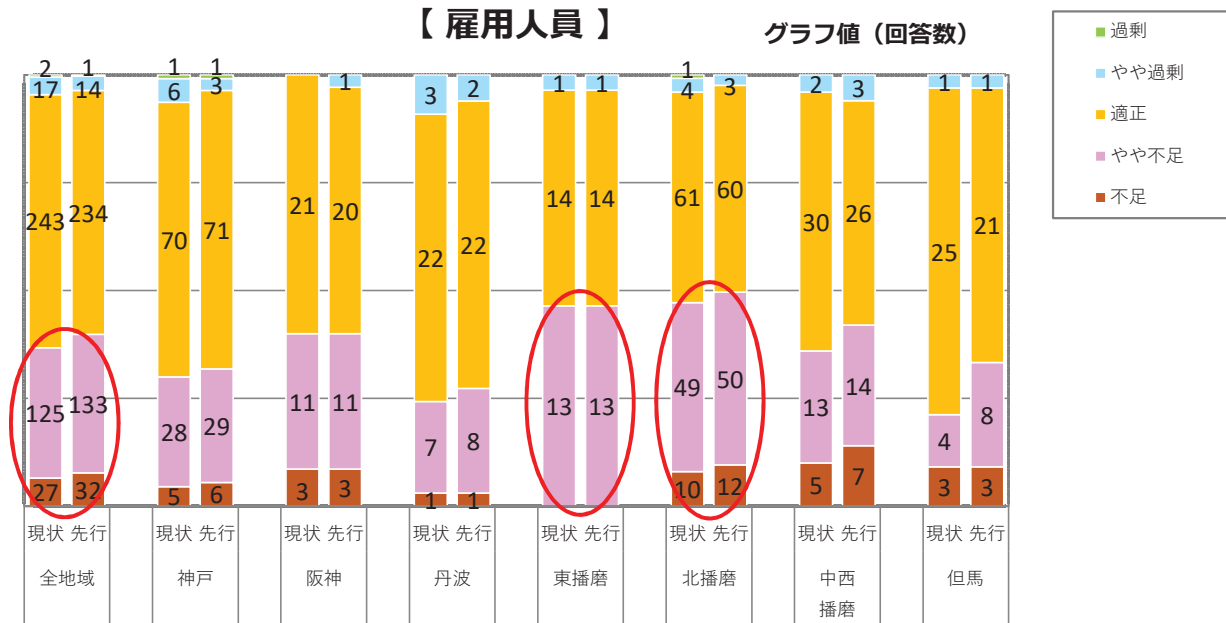
地域別では、神戸、阪神、丹波、中西播磨の4地域は「需要超過」側が多く、東播磨、北播磨、但馬の3地域では「供給過剰」側の回答が多いが、いずれも差は僅かであり、地域別でも「需要超過」「供給過剰」のいずれとも言い難い回答となっている。



○ 雇用人員

全体では、60%弱が「適正」の回答ではあるものの、DI値では現状-133、先行-150と明確に人員不足感が現れた回答となっており、「過剰」側は僅か5%未満の回答となっている。

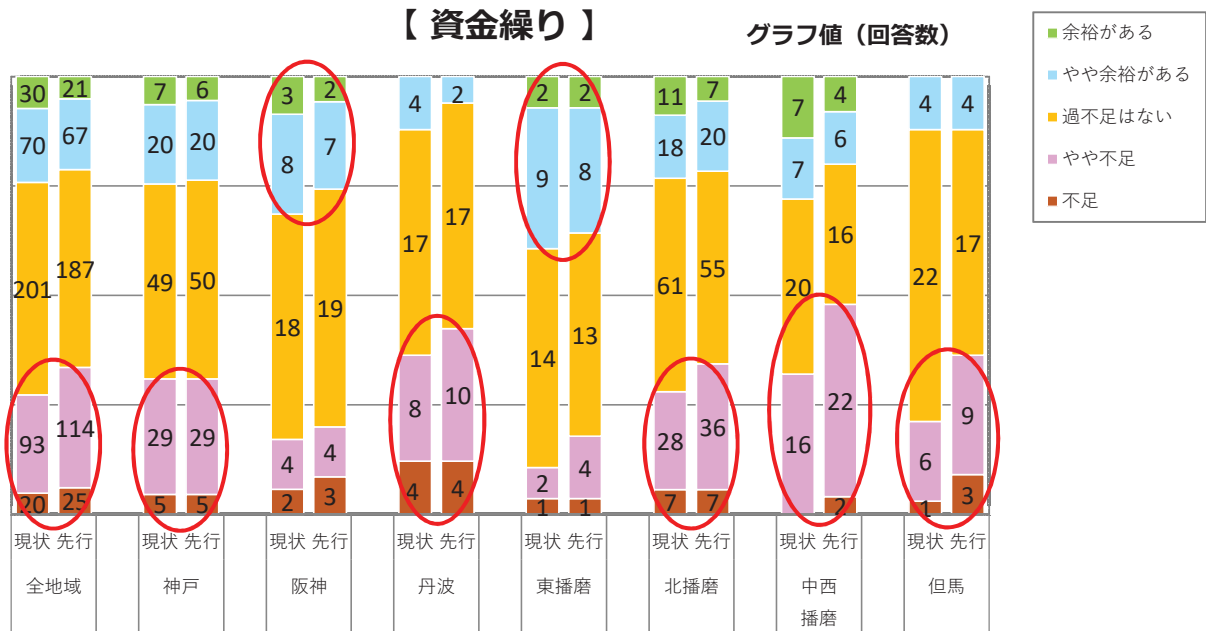
地域別では、東播磨は3回連続、北播磨は前回と連続で約50%が「不足」側の回答と特に人員不足感の強い回答となっている。



○ 資金繰り

全体として、前回、現状はDI値+5と持ち直していたものの、先行は-4と再度資金繰りの悪化が懸念される回答となっていたとおり、今回はDI値で現状-13と「不足」側の回答が多く、先行-51とさらに資金繰り悪化を予想した回答となっている。

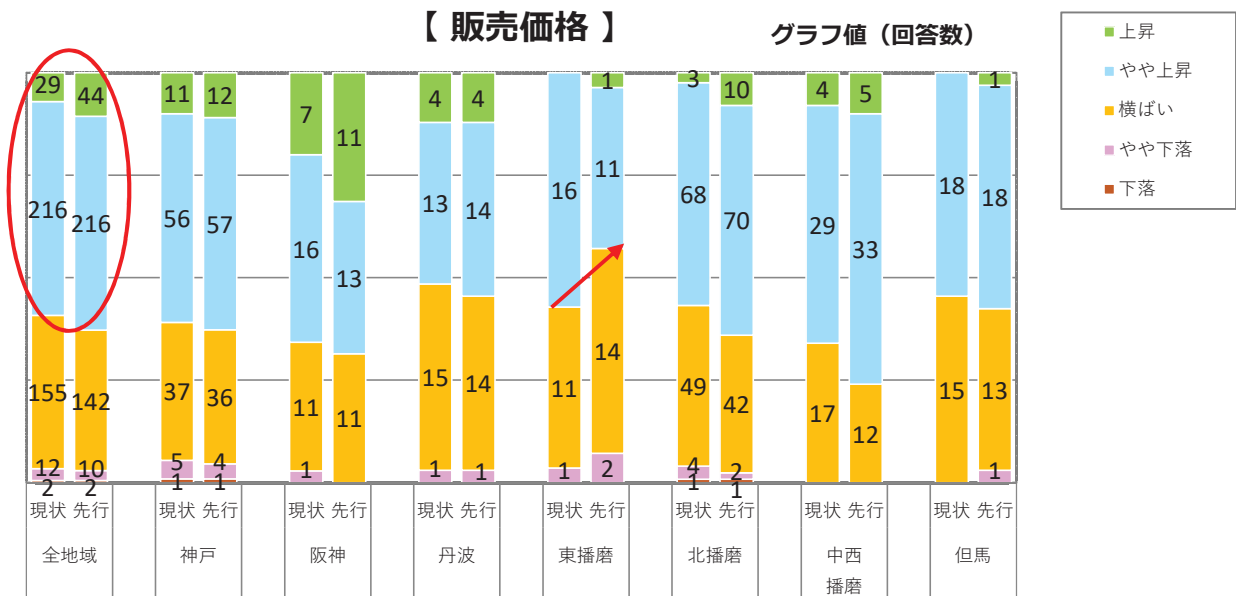
地域別では、神戸、丹波、北播磨、中西播磨、但馬の5地域で「不足」側が多い回答となっている中、阪神と東播磨の2地域では「余裕がある」側の回答が大幅に多く、特徴的な回答となっている。



○ 販売価格

全体としては、「下落」側の回答は3%程度、DI値は現状+230、先行+248と、引続き「上昇」傾向が明らかな回答となっている。

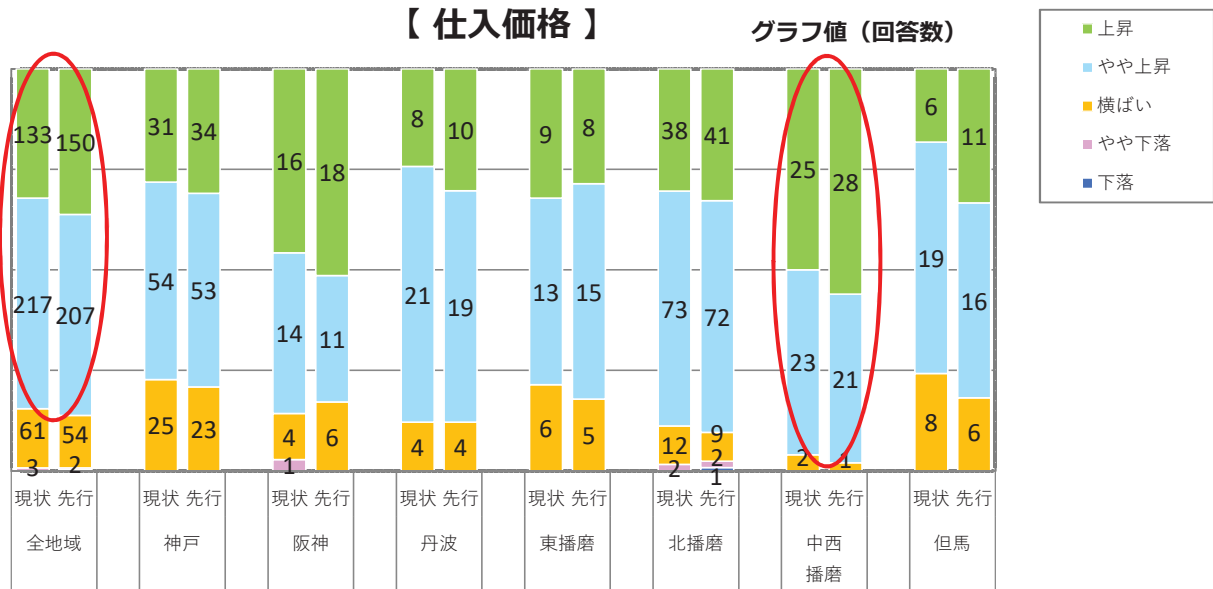
地域別では、すべての地域で現状、先行とも「上昇」側の回答が多く、大半の地域で先行「上昇」側の回答が多い中、東播磨のみ先行「上昇」側の回答が減少している。



○ 仕入価格

全体として、「下落」側の回答は1%未満と僅かにある程度で、現状、先行とも約85%が「上昇」側の回答となっており、前回よりさらに上昇傾向の回答となっている。

地域別でも、すべての地域で75%以上が「上昇」側の回答となっているが、中でも中西播磨は現状、先行とも95%以上が「上昇」側の回答と特に多い。

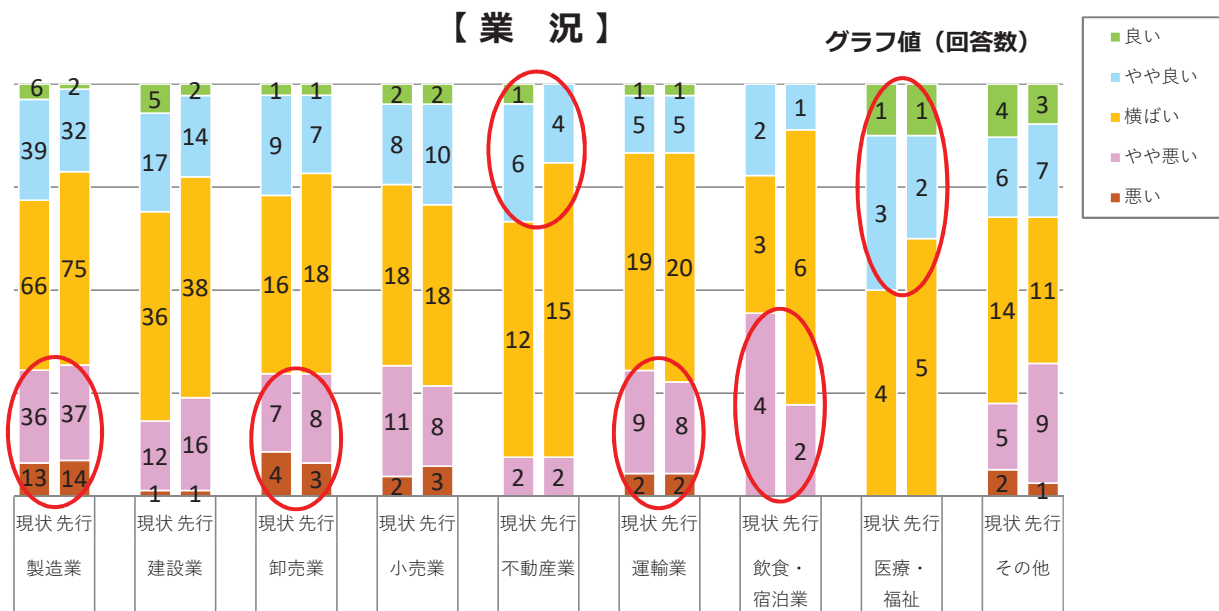


業 種 別

○ 業 況

前回、先行「良い」側の回答の業種が増加し、業況良化見込みの回答となっていたが、今回は現状、先行とも4業種で「悪い」側の回答が多く、現状、先行とも「良い」側の回答が多いのは2業種となっており、前回から一転業況悪化傾向の回答となっている。

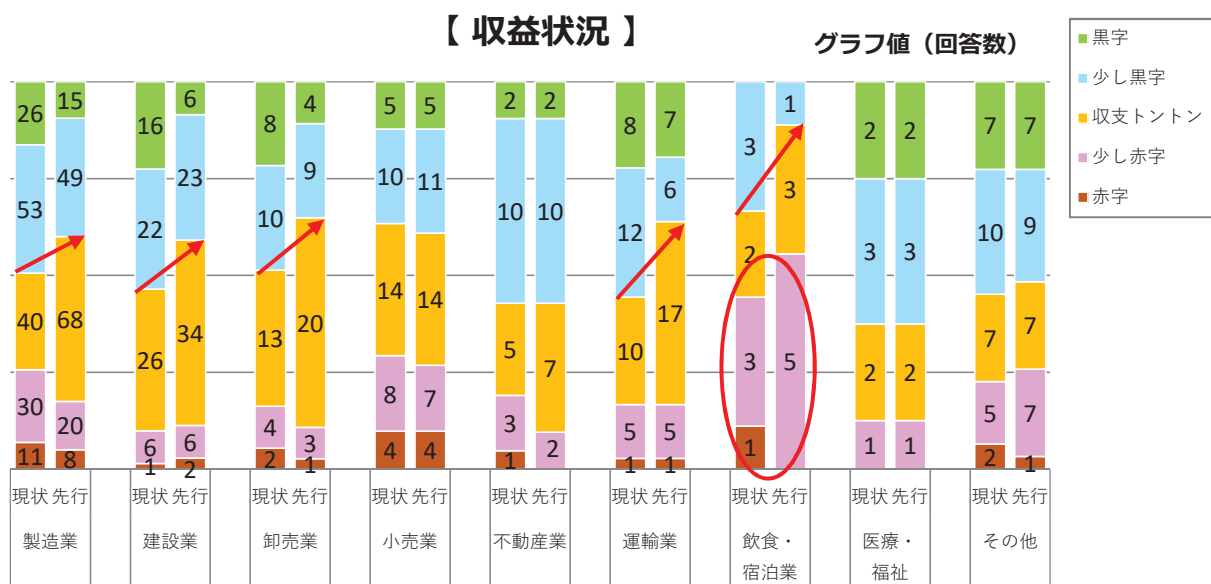
現状、先行とも「良い」側の回答が多いのは、不動産、医療・福祉の2業種となっている。



○ 収益状況

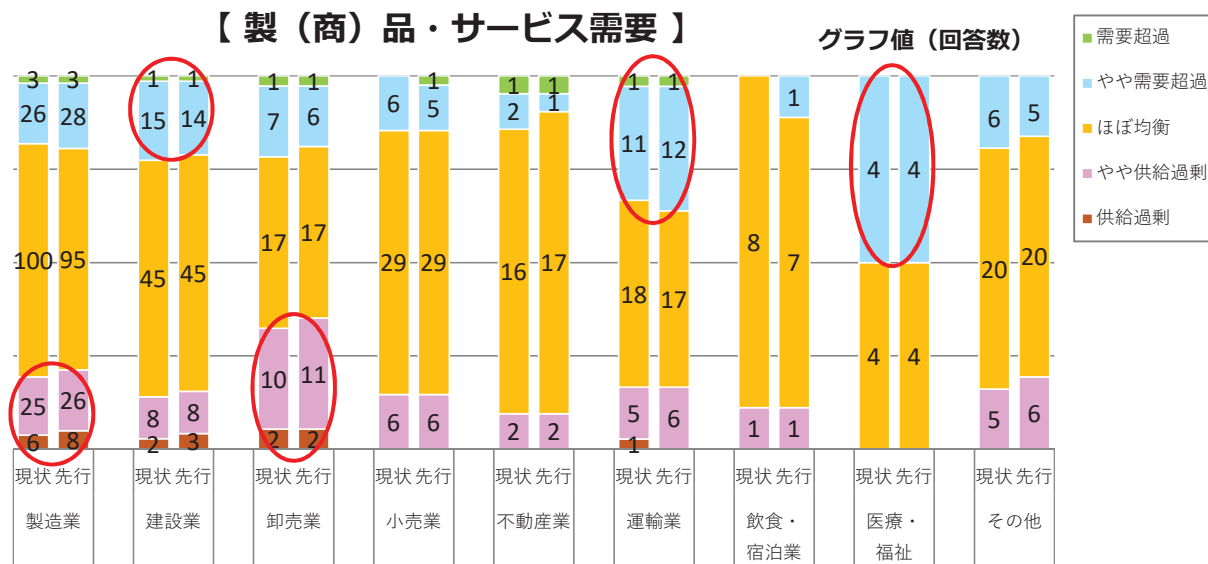
今回、「赤字」側の回答が多いのは飲食・宿泊のみで、その他の業種は現状、先行とも「黒字」側の回答が多く、前回に続き黒字基調の回答となっている。

しかしながら、製造、建設、卸売、運輸、飲食・宿泊の5業種で先行「黒字」側の回答が減少しており、今後収益悪化が予想されている。



○ 業界の製（商）品・サービス需要

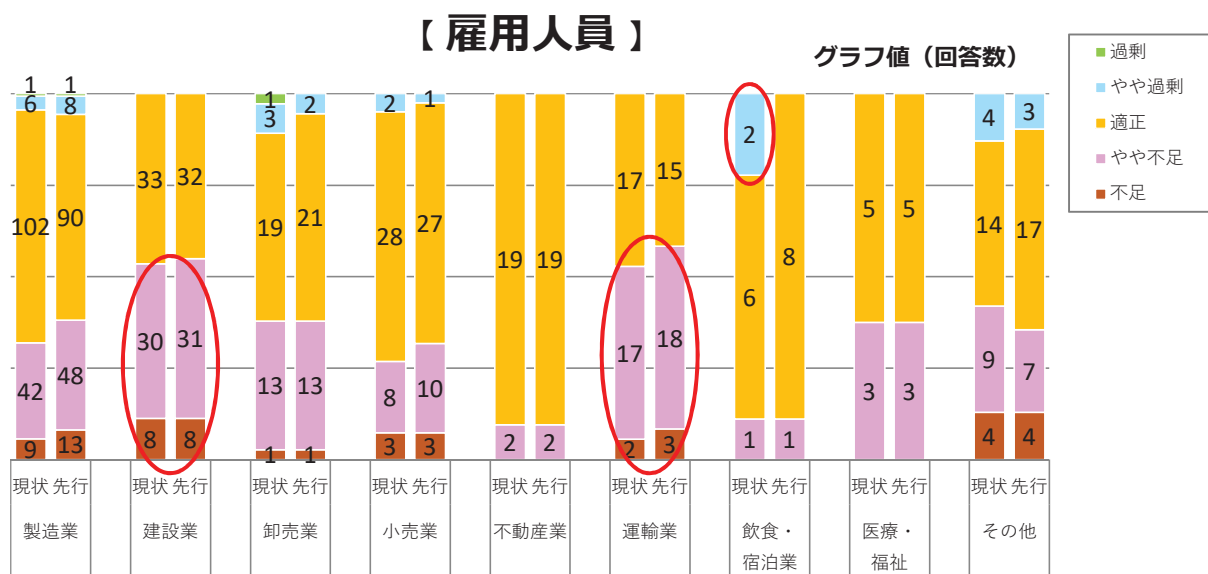
現状、先行とも「需要超過」側の回答が多いのは3業種で、「供給過剰」側の回答が多いのは2業種となっており、業種によって様々で明確な傾向のない回答となっている。  
 「需要超過」の業種は建設、運輸、医療・福祉であるが、この3業種は雇用人員の設問で「不足」の回答が多く、人手不足は「需要超過（供給不足）」の一因であることから整合性のある結果となっている。



○ 雇用人員

大半の業種で「不足」側の回答が多い中、飲食・宿泊の現状のみ「過剰」側の回答が多いが、飲食・宿泊は前回「不足」側の回答が70%で最も多かったことから、状況が大きく変化している。

「不足」側の回答が特に多いのは、前回同様に建設と運輸で50%以上が「不足」側の回答となっている。これらの業種は労働集約型の産業であるため、人手不足は供給不足に直結することから、上記の製（商）品・サービス需要の設問において需要超過の回答が多い結果として現れているものと考えられる。

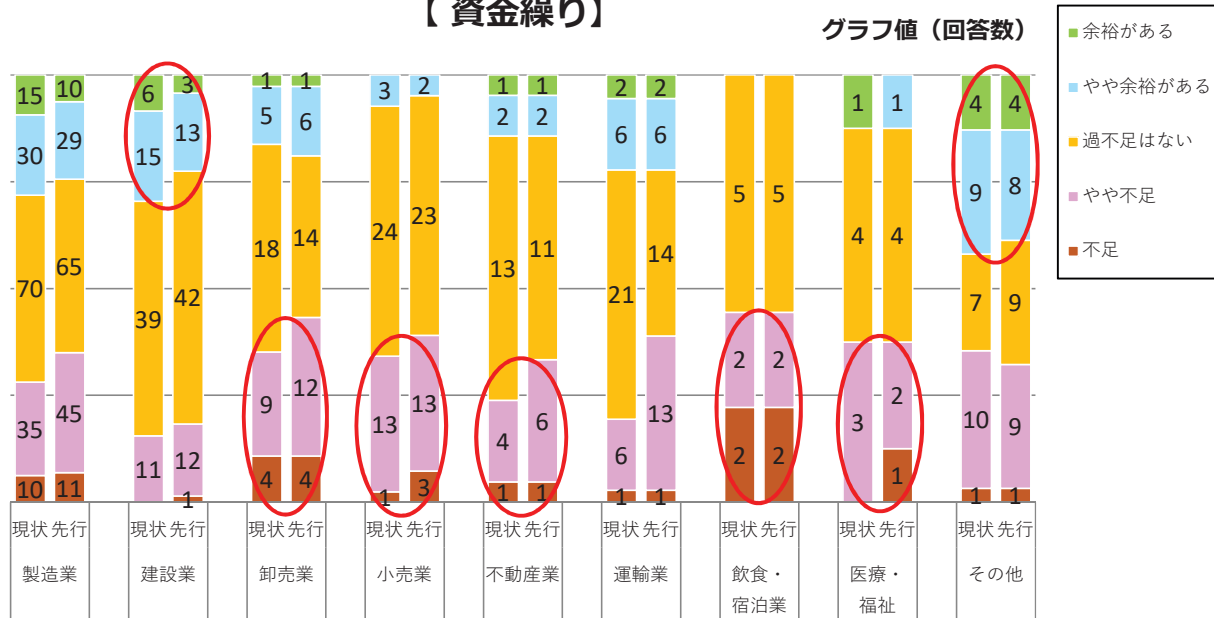


○ 資金繰り

前回は、「余裕がある」もしくは「不足」か明確な傾向のない回答であったが、今回は、現状、先行とも「余裕がある」側の回答が多いのは2業種に対し、「不足」側が多いのは5業種となっており、資金不足の傾向が窺われる回答となっている。

また、製造、建設、卸売、小売、不動産、運輸の6業種において、先行「不足」側の回答が増加しており、今後さらに資金繰りの悪化が予想されている。

【 資金繰り】

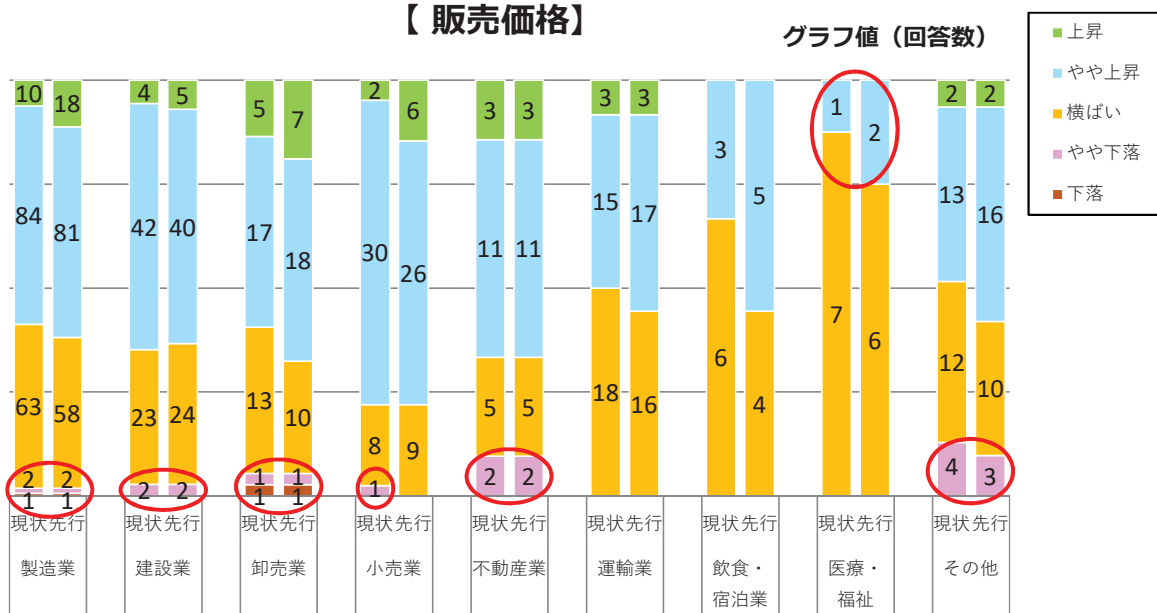


○ 販売価格

大半の業種で「上昇」側の回答が50%を超え、「下落」側の回答は全体の3%未満と上昇が明確な回答となっている。

そのような中、医療・福祉は、「下落」側はないものの「上昇」側の回答が25%以下と、前回よりさらに少なく、価格転嫁が困難な業種であることが窺われる回答となっている。

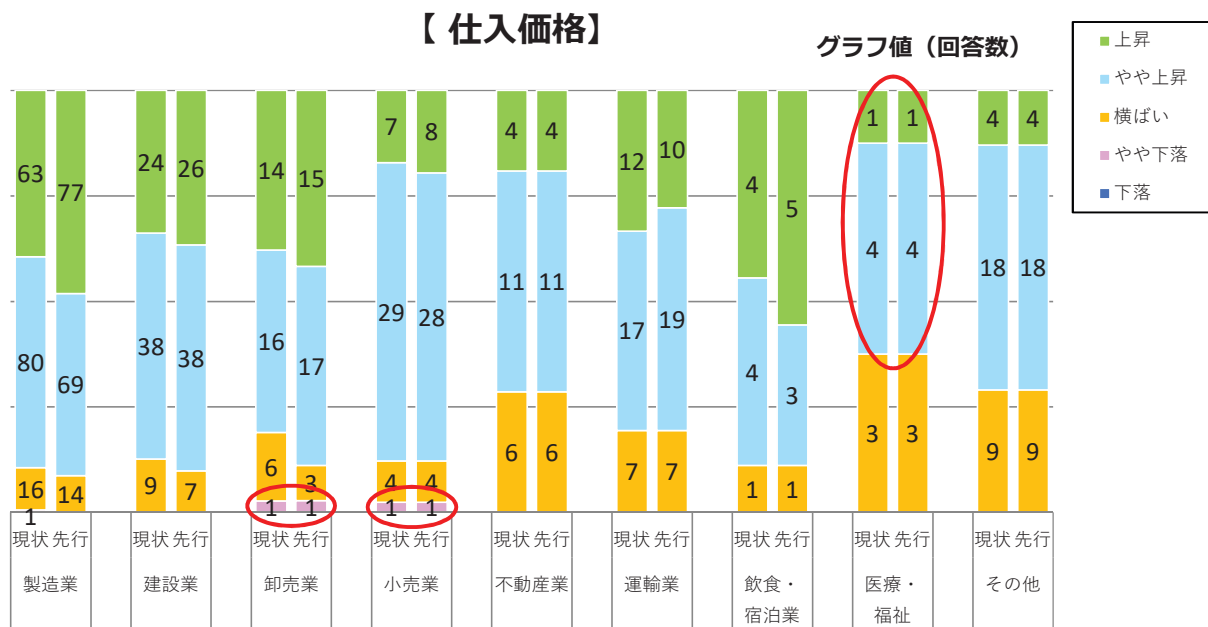
【 販売価格】



○ 仕入価格

今回も全業種で「上昇」側の回答が50%を超えて多く、「下落」側の回答は、卸売、小売で1件ずつ散見される程度であり、明らかに「上昇」傾向の回答となっている。

また、医療・福祉は、前回の約10%から今回約60%まで「上昇」側の回答が増加しているものの他の業種と比べて少なく、医療・福祉は販売価格も仕入価格も「上昇」の回答が少ない特徴的な回答となっている。



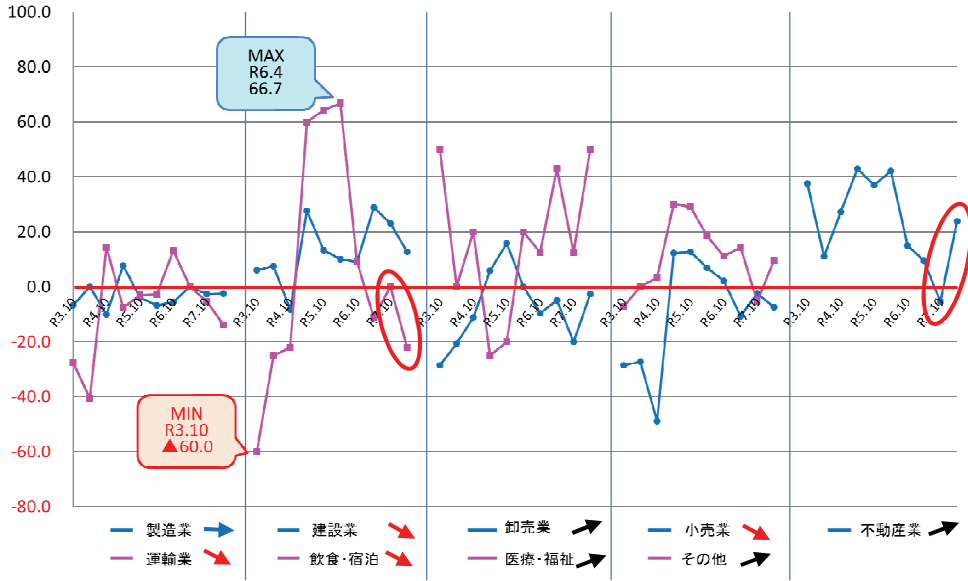
## 【 業種別D.I 推移 】

- 第13回（令和3年10月）～第22回（令和8年4月） -

※D.Iとは：Diffusion Index（ディフュージョン・インデックス）  
「良い」（増加など）と答えた割合から「悪い」（減少など）と答えた割合を差し引いた値で、どちらが多数派なのかという限定的なモノサシです。

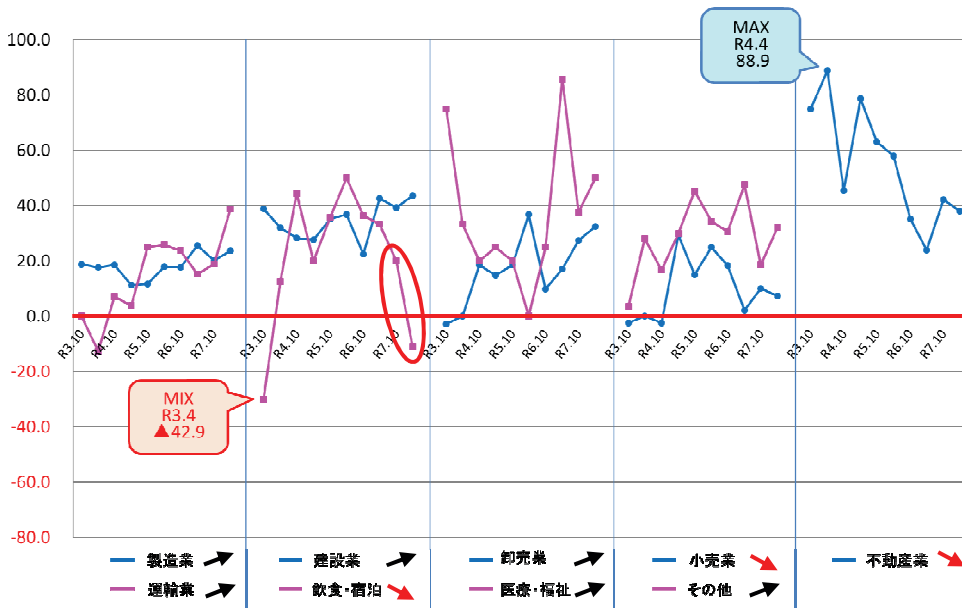
### ＜業況D.I＞

現状について、前回より良化したのは4業種に対し悪化したのも4業種で、DI値の+域が4業種に対し、-域は5業種となっており、明確な傾向は判明しない結果となっている。  
特徴的な動きとしては、不動産が+域まで良化し、飲食・宿泊は-域まで悪化している。



### ＜収益状況D.I＞

前回より良化しているのは6業種に対し、悪化しているのは3業種で、良化傾向の回答となっている。また、前回全部の業種がDI値+域であり、今回も大半の業種が+域にある中、飲食・宿泊のみ大きく悪化し-域となる特徴的な動きとなっている。

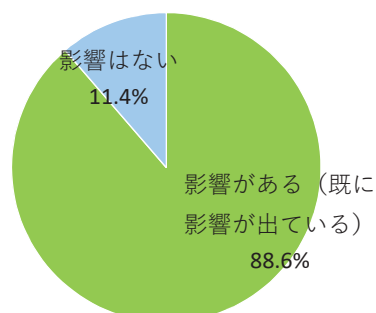


＜昨今の為替変動や国際情勢の変化、原材料価格やエネルギーコストの高騰等による企業活動への影響＞

- 為替変動や国際情勢の変化、原材料価格やエネルギーコストの高騰により、今後の企業活動に影響があると思われませんか。

前回の55.8%から88.6%へ「影響がある」回答が大幅に増加しているが、これは、2月にアメリカがイラン攻撃を開始したことにより原油が供給不安から価格高騰し、物価全体が上昇している状況が影響しているものと考えられる。

項目	構成比率
影響がある（既に影響が出ている）	88.6%
影響はない	11.4%
合計	100.0%

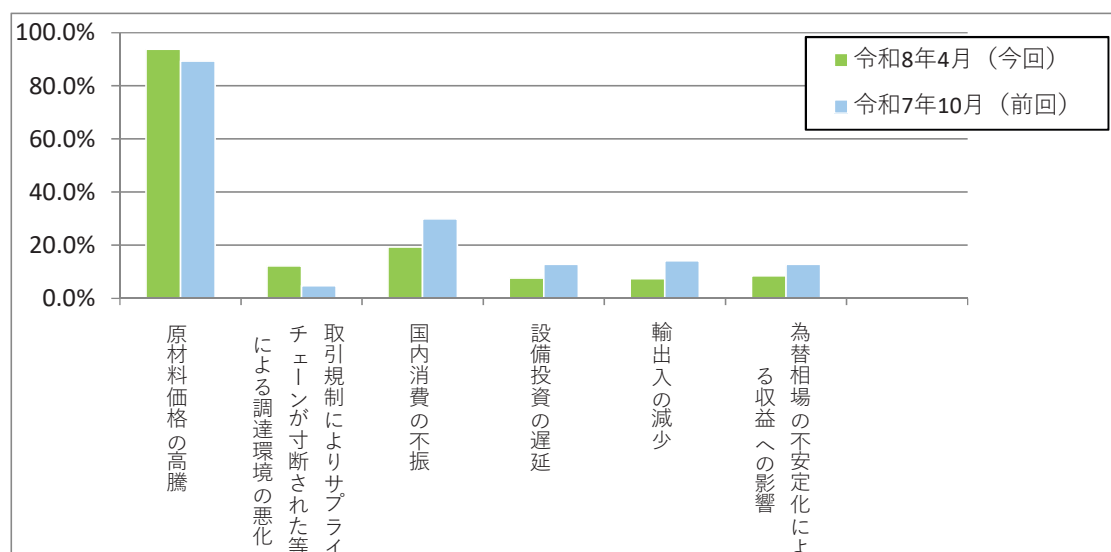


- 「影響がある」と回答された方は、どのような影響があると思われませんか？（複数回答）

燃料のみならず建築資材、繊維製品等多くの製品の原材料となっている原油が、イラン情勢により供給不安となっているため、「調達環境の悪化」が増加し、「原材料価格の高騰」の回答は、さらに増加し90%を超えている。

項目	比率	
	令和8年4月（今回）	令和7年10月（前回）
原材料価格の高騰	1 93.7%	1 89.3%
取引規制によりサプライチェーンが寸断された等による調達環境の悪化	3 12.3%	4 4.7%
国内消費の不振	2 19.3%	2 29.9%
設備投資の遅延	5 7.6%	4 12.8%
輸出入の減少	7.4%	3 14.1%
為替相場の不安定化による収益への影響	4 8.4%	4 12.8%

※赤文字は、順位を表しています。



○ 「原材料価格の高騰」と回答された方は、具体的に高騰している商品はどのようなものですか？（複数回答）

今回回答が増加したのは、「燃料」「プラスチック原材料」「石油製品」の3項目だけで、他の14項目はすべて減少している。

増加項目は、いずれも石油由来のものでイラン情勢の影響が窺われる一方、減少項目の中でも-11.3%と「光熱費」は減少幅が大きい。これは政府の電気・ガス料金補助政策によるものと考えられる

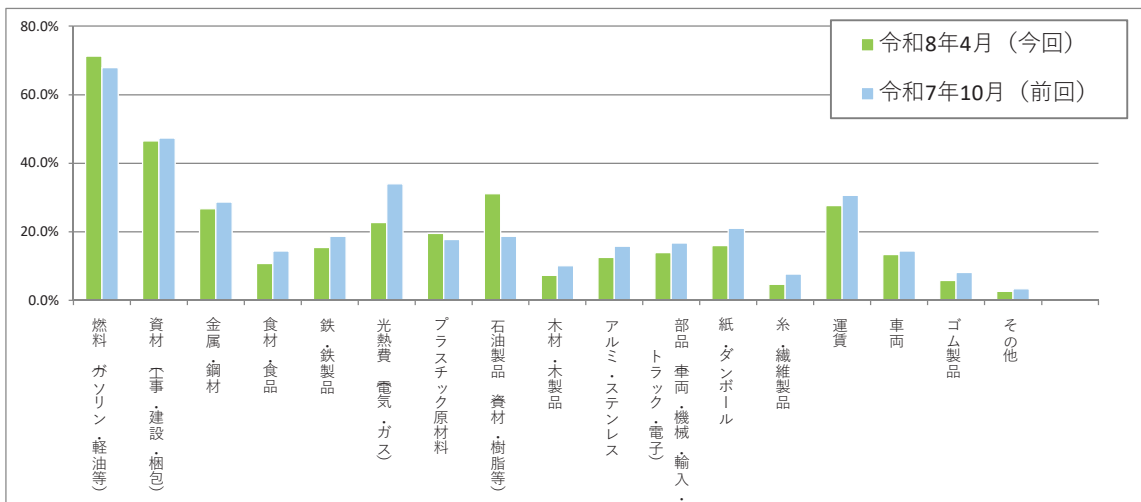
項目	比率			
	令和8年4月（今回）		令和7年10月（前回）	
燃料（ガソリン・軽油等）	1	71.2%	1	67.9%
資材（工事・建設・梱包）	2	46.5%	2	47.4%
金属・鋼材	5	26.7%	5	28.7%
食材・食品		10.8%		14.4%
鉄・鉄製品		15.4%		18.7%
光熱費（電気・ガス）	6	22.7%	3	34.0%
プラスチック原材料		19.5%		17.7%
石油製品（資材・樹脂等）	3	31.1%		18.7%
木材・木製品		7.3%		10.0%
アルミ・ステンレス		12.5%		15.8%
部品（車両・機械・輸入・トラック・電子）		14.0%		16.7%
紙・ダンボール		16.0%	6	21.1%
糸・繊維製品		4.7%		7.7%
運賃	4	27.6%	4	30.6%
車両		13.4%		14.4%
ゴム製品		5.8%		8.1%
その他		2.6%		3.3%

【その他の内訳】

※赤文字は、順位を表しています。

«今回»令和8年4月：保守管理費、更新料、整備工賃、人件費、染料、薬品、助剤、廃材処分費用、シンナー、建物の解体費用、油脂類、塗料

«前回»令和7年10月：外注費用、銅、化粧品、農薬、肥料、薬剤、送料代、ガラス製品



### ＜今後期待する経営支援内容＞

今回も「資金繰り」悪化傾向の回答を反映し、「資金繰り支援」が増加し約70%で最多、次に約60%で「補助金等の申請支援」が多く、その他の項目は20%未満で資金関係の支援を期待する回答が目立っている。

動きとしては、「資金繰り支援」「異業種交流会」を除く項目が減少している中、「不動産売買情報」が約8%、「補助金等の申請支援」は約7%減少しており比較的大きな動きとなっている。

項目	比率	
	令和8年4月（今回）	令和7年10月（前回）
資金繰り支援	1 69.1%	1 66.3%
補助金・助成金等の案内・申請支援	2 58.7%	2 65.4%
事業承継支援	5 12.6%	5 16.2%
ビジネスマッチング等販路開拓支援	3 19.6%	3 21.7%
SDGs対応支援	2.7%	4.8%
脱炭素対応支援	1.0%	2.6%
人材育成支援	7.5%	9.8%
人材紹介支援	4 15.9%	4 16.7%
事業戦略・経営計画策定支援	4.6%	7.9%
不動産売買情報	4.3%	12.2%
異業種交流会等、事業者同士の懇親会の開催	3.9%	2.9%
その他	0.7%	0.2%

※赤文字は、順位を表しています。

#### 【その他の内訳】

◀今回▶令和8年4月：他の業種などの経営情報、働く人への環境整備補助金、減税

◀前回▶令和7年10月：事業の方向性について相談したい

